

## 経済学を学ぶにあたって

経済学部長 砂川良和

経済学部長 砂川良和

入学おめでとうございます。厳しい受験戦争をくぐり抜け、無事本学部に入學されましたこと、心からお祝い申し上げます。今日から大学の生活が始まりますが、大学では、これまで皆さんが生活してこられた学校とはちがって、皆さんの学校生活に干渉することはありません。大人として扱うわけですが、したがって、はじめて両親から離れて生活される方は、急に束縛から解放されることになり自由な生活を満喫することになります。ただこの自由な生活には、さまざまな落とし穴が待ちうけています。自由な生活が不規則な生活や怠惰な生活になりますと健康を害したり、留年の憂き目をみたりすることになります。これまでかず多くの先輩達がこの落とし穴に落ちました。御用心下さい。もっともこの自由を有効に活用することになりますと大学生活はまた一段と楽しいものになります。

さて皆さんはこれから経済学を勉強されるわけですが、そのことについて私の経験を踏まえてお話ししてみたいと思います。私が大学に入學した頃のことですからもうかれこれ40年あまりも前のことです。当時は第二次大戦後まもない頃で、焼野原の中にバラック建の学舎が散在しているというありさまでした。夏はともかく暖房のない冬の教室での身にしみる寒さと空腹は、いまでもときおり思い出すほどです。今にして思えば、二度と経験したくない、まさに想像を絶する貧しさであったといつてよいでしょう。当時は、こういった飢餓からの解放が最大の課題であったように思われます。飢餓はどんな鈍感な人間でも、みずからにふりかかってくる問

題ですから、それから逃れる道をいやおうなしに必死に考えざるを得ません。飢餓をなんとかしなければというのが当時の人びとの共通の思いではなかったかと思えます。こういった当時の人びとの飢餓感覚をバネにして、社会の仕組みや、構造を考え、また経済を論じ、そして高度経済成長志向が始まったといえましょう。その頃の人びとが家庭生活をかえりみない働き蜂になったのも、飢餓からの解放という願望がその底流にあったからではないでしょうか。その後、紆余曲折はあったものの、日本は物質的にはずいぶん豊かになりました。これは大変結構なことであり、また喜ばしいことでもあります。しかしその結果としての暖衣飽食は、しばしば人びとをして経済に対する関心をなくさせてしまうきらいがあります。それは餌を十分与えられた猫がネズミをとらなくなるのと同じです。直接身につまされることがなければ、経済の問題といっても、それはあくまで頭の中でのみ考える抽象の世界での絵空事になってしまうからです。こういったことから豊かな社会は、経済学の勉強にたち向かっていくには不向きな時代といえるかもしれません。それゆえ豊かな社会での経済学の勉強は、よほどしっかりした目的意識、鋭い感受性や努力の積重ねを必要とします。現代は、戦後とはまた異なった意味で経済学を勉強することの必要性がますますかままっているように思われます。そのことを十分自覚して、大いに頑張ってください。最後にになりましたが、なにとぞ健康に注意され、有意義なカレッジライフをお送り下さい。